

令和5年度 事業報告

1. 令和5年度の当財団の基本財産運用収入は、0.001%の運用益となりました。

2. 啓発事業

(1) 一般部門

①当財団の主要事業である「とやま環境賞」について、下記の6団体2個人を表彰しました。

「優秀活動賞」

○朝日町立笹川公民館

地域においてホタルが生息できる環境を整備し、ホタルの観察会や水生生物観察会を通じ、地域の方々に自然環境保護の意識を高める活動を継続的に行っている。

○六渡寺自治会

六渡寺海岸において永年にわたり地域住民やボランティアとともに清掃美化活動を行い、地域の環境を守るとともに保護意識の向上に努めている。

○伊藤理絵

富山県地球温暖化防止活動推進員として、地域の小学生や幼稚園児に環境教育を行うとともに、県民の森づくりを深める富山県フォレストリーダーとして、地球温暖化防止の意識向上に尽力している。

○飯田肇

立山の雪や気象を継続的に調査し、日本に存在しないとされた氷河を発見するなど、自然環境の研究に尽力するとともに、気象の変化を登山者などに発信して、山岳遭難の防止に努めている。

「ジュニア活動賞」

○舟橋村立舟橋小学校

地域の竹鼻用水でホタルの里づくりや、細川・京坪川のサケの遡上調査、またサケ・サクラマスが発眼卵の飼育や稚魚の放流を行い、その活動は地域全体に広がり、舟橋村の環境保全活動の中心的役割を担っている。

○富山県立中央農業高等学校 生物生産科 作物科学コース 作物専攻

「SDGs 中農MIRAI 米づくりプロジェクト」を立ち上げ、ドジョウの排泄物を栄養にし、アイガモロボで雑草を抑制した有機米栽培を研究する「ドジョウとアイガモロボを活用したアクアポニックス水稻栽培実験」を行うなど、持続可能な農業と豊かな自然環境の創造に貢献している。

○富山県立氷見高等学校 海洋科学科

ウニが海藻を食べつくす磯焼けを防止するため、廃棄野菜を使ってウニの畜養を試み、海洋環境保護活動のみならず、食品ロス問題やウニの商品開発、廃棄ウニの殻を農業に活用するなどの活動を行っている。

○富山県立富山中部高等学校 スーパーサイエンス（生物）部

絶滅危惧種であるホクリクサンショウウオの生息調査において、目視に頼らず確認できる環境DNAに着目し生息場所を推定、その研究成果を小学校や地域イベントにおいて発表するなど地域の保護意識の向上に寄与した。

それぞれの活動の様子は企画ニュースとして、富山テレビ放送「ライブBBT」で放送しました。

②福岡地区に湧く水が地域の伝統産業を支えてきた歴史を紹介する番組「伝統産業を生んだ水」を、15分番組として制作し、令和6年3月23日（土）に富山テレビ放送で放送しました。

③当財団と富山テレビ放送で、「ジオグラフィックとやま」を5分番組として毎週2回、年間を通じて制作・放送し、自然環境の保全を提唱しました。

④当財団と国土交通省立山砂防事務所の主催による、第25回「SABO体験楽校」の開催を予定していましたが、研修場所及び宿泊場所の広さが十分に確保できず、感染症への予防と安全を考慮し中止としました。

(2) 情報部門

水や環境情報、団体などが行っている環境活動を富山テレビ放送の協力を得て、ニュースなどで随時紹介しました。

3. 普及事業

(1) 普及広報活動

①国土交通省、富山河川国道事務所、黒部河川事務所、立山砂防事務所、利賀ダム工事事務所と共催で「第35回川の絵画コンクール」を開催しました。県内の小学校から2,602点の応募があり、故郷の川への思いとエピソードが伝えられました。また、優秀作品を取り込んだ「川の絵画カレンダー」を参加者及び県内の小学校に配布しました。

②「親子で学ぶ！夏休み自然体験学習」を、トヨタ白川郷自然学校の協力を得て実施しました。8月19日（土）・20日（日）の2日間、16組32名の親子が「水と森のつながり」をテーマに自然体験学習をしました。この模様は8月25日（金）の「ライブBBT」で放送しました。

③富山県ひとづくり財団、富山テレビ放送との共同主催で「水みらいプロジェクト2023」を実施しました。身近な水生生物や植物の飼育・観察を通じて水環境の大切さを子どもたちが学ぶ活動を助成し、その活動の模様を令和6年3月30日（土）に55分番組として富山テレビ放送で放送しました。

④気象予報士で富山テレビお天気コーナーを担当する木地智美さんによる「気象キャスター木地智美のお天気教室」を実施しました。11月11日（土）に、18組38名の親子が参加し、地球温暖化による気象や環境への影響に関する解説や、雲の成り立ちの実験などを行い、環境について学びました。

(2) 催事・研究助成

射水市 海・川の森づくり事業に助成しました。

以上